

令和8年度小松市立芦城学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	生徒指導4つの視点を生かした学校づくりを推進する。		
	①月に1回、学級会を開き、自分たちの学級の課題を見つけ解決できるよう取り組む。 ②生徒指導の4つの視点を生かした授業の視点を明確にし、常に意識して授業を行う。		
特別支援教育 不登校対策	安心・安全な居場所づくりを推進する。		
	別室学習等の児童に対する支援体制を整備し、組織的に対応することで、教室に入れない児童が自分のペースで安心して学ぶ時間を増やす。		
学校研究	学び手が主役となる授業づくり推進する。		
	①単元の中に、「児童に委ねる場」を設定し、指導を充実させることで、「学ぶことは楽しい」、「自分で学ぶ力が伸びた」と思える児童を増やす。 ②「着目ポイント」を明確にした授業を増やす。		
デジタル学習基盤の活用	他者参照、振り返りの共通システムを構築し、共通実践する。		
	①「他者参照」の共通システムを構築し、3年生以上の全クラスで実践する。 ②3年生以上で、生成AIを効果的に活用する。		
学力向上	学力向上につながる朝学習とカリキュラムマップとなるよう改善を図る。		
	①基礎基本の定着、本校の課題への対応の両面を考えた朝、帯タイムを設定し、全クラスで実践を徹底し、児童の力を伸ばす。 ②家庭学習の方法について共通システムを作り、共通実践することを通して、自立した学習者の素地を育成する。		
情報モラルの健康教育	心身の健康を考えたメディア利用の理解を図る。		
	2か月に1回程度、全校で学習会を開き、メディア利用の正しい在り方について学ぶ機会をもち、自律的に利用できる力を育成する。		
働き方改革 校務改善	校務のDX化を推進する。		
	①会議や健康観察のペーパーレス化、チャットを利用した報連相等、更なる校務改善に取り組む。 ②教育課程の改善を進め、時間外勤務時間を減らす。		
キャリア教育	自分のこれからの生き方について考える指導を推進する。		
	各教科や総合的な学習の時間等を通して、社会とのつながりや自分の未来の生き方を考える時間を設定する。		

学校関係者評価	
---------	--